

Title	『経済表』再読：模型から経済統治まで
Sub Title	On Quesnay's Tableau Economique
Author	寺出, 道雄(Terade, Michio)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2011
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.104, No.1 (2011. 4) ,p.99- 111
JaLC DOI	10.14991/001.20110401-0099
Abstract	
Notes	研究ノート
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20110401-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究ノート

『経済表』再読

——模型から経済統治まで——

寺 出 道 雄

(1) はじめに

本稿の目的は、ケネー『経済表』⁽¹⁾の「本表」、
いわゆる「ジグザグ表」(以下「ジグザグ表」な
いし単に「表」と表示する)を読み取り、その

意義について考えることである。

「ジグザグ表」の読み方はさまざまである⁽²⁾が、
本稿では、別稿で考察した経済表の「範式」と
の関連から、⁽³⁾それを読むことにする。

以下、(2)の「ジグザグ表」の基本的性格」
では、同表について紹介するとともに、その

(1) テキストとしては、Kucynsky and Meek (1972) 版を用いる。掲載した「ジグザグ表」の原本と英訳の複写の出所も同書である。同書には、『経済表』第3版の原書のファクシミリ版が見開き左ページに、それに対応する英訳が右ページに掲載されている。「表」(Tableau) そのものには、ページ数はなく、「説明」(Explication) の部分には、原書・英訳ともローマ数字でページ数が打たれている。また、狭義の「経済表」に付載された、'Extrait des Économies Royales de M. de Sully' (「シュリー公の王国経済についての格言抜粋」) の部分には、アラビア数字で同様の取り扱いがなされている。したがって、以下で、単に例えば「p.iii」とか「p.3」とかあれば、それは、原書・英訳双方でのページ数を示すことになる。ページ数のない「表」は、単に「表」として示した。なお、以下で「l」は、貨幣単位「リーヴル」の略である。

(2) 主なものはBlaug (1991) に収録されている。

(3) 「範式」については、寺出 (2010) を参照。

「ジグザグ表」とその「説明」では、「範式」では明確化されている事柄がかなり錯綜して述べられている。したがって、以下で行なうように、「ジグザグ表」を、「範式」の目によらずに整合的に理解することはできないと思われる。注 (4)・注 (6) を参照。なお、以下で、「生産的支出階級」「不生産的支出階級」という概念は、「範式」にしたがって、それぞれ「生産階級」「不生産階級」と略称する。

「範式」との関連についての私見を述べる。(3)の「人口・富・経済統治」では、ケネーが同表の「説明」を行なった部分を紹介するとともに、その叙述についての私見を述べる。(4)の「おわりに」では、本稿での議論について簡単に要約する。

なお、「説明」では、外国貿易についてしばしば触れられるのであるが、本稿では、その問題は捨象して、1つの閉じた農業王国の経済について考えていくことにする。

(2) 「ジグザグ表」の基本的性格

1 まず、「ジグザグ表」原本とその英訳の複写を掲げよう。

その、一見すると極めて複雑な「表」の「目的」を、ケネーは、以下の事柄を考察することであるとしている。

「(1)支出の3つの種類。(2)それらの源泉。(3)それらの前払。(4)それらの分配。(5)それらの効果。(6)それらの再生産。(7)それらの相互の関係。(8)それらの人口との関係。(9)農業との関係。(10)製造業との関係。(11)交易との関係。(12)国民の富の総計との関係。」(表)

そして、彼は、その「表」の「要約」にあたる叙述として、そこでの「総再生産」について、次のように述べる。

「600*l*の収入が、600*l*の年費用と、土地が返還するものである300*l*になる農民の原前払の利子に加えて生じる。それゆえ、再生産は1,500*l*であり、計算の基礎をなす600*l*の収入はそれに含まれ、耕作に課せられる租税とそ

の年再生産にともなう前払等は捨象されている。」(表)

2 さて、このような「ジグザグ表」が、極めて複雑に見えるのは、そこに混乱が含まれているからである。また、そこでは、絵画の手法の用語でいえば、時間の経過につれて進行する物語の複数の場面を同一の絵に描く、「異時同図法」と同じ手法がとられているからでもある。すなわち、そこでは、ある年の市場で、多数の時点にわたって行なわれる階級間での財の売買の進行が、ことこまかに示されているのである。

そこで、「ジグザグ表」の形態を簡略化して示せば、図1のようなオーダー状の形態になる。さらに、ケネーが同表とその「要約」として述べている事柄について、ケネーの混乱を整理した上で、時点の数を減らして簡略化し、見やすいように横表示にすれば、図2が得られることになる。

ここでは、矢印の出発点の階級の需要が、到着点の階級の生産物に向けられていることが示されている。したがって、貨幣は、出発点の階級から到着点の階級に、逆に、財は、到着点の階級から出発点の階級に流れることになる。そうした図2を用いて、この王国の経済に生じる事態を説明していこう。

まず、図1の1、3の2つの縦長の長方形に示されるべき事柄を見ていこう。

第1時点において、地主階級は、生産階級から600*l*の収入（貨幣形態での地代）を受け取っており、その収入を生産階級の生産物（農業製品等）300*l*と不生産階級の生産物（製造業

TABLEAU ÉCONOMIQUE.

Objets à considérer, 1.° Trois sortes de dépenses; 2.° leur source; 3.° leurs avances; 4.° leur distribution; 5.° leurs effets; 6.° leur reproduction; 7.° leurs rapports entr'elles; 8.° leurs rapports avec la population; 9.° avec l'Agriculture; 10.° avec l'industrie; 11.° avec le commerce; 12.° avec la masse des richesses d'une Nation.

DEPENSES PRODUCTIVES relatives à l'Agriculture, &c.	DEPENSES DU REVENU, l'impôt prélevé, se partageant aux Dépenses productives et aux Dépenses stériles.	DEPENSES STÉRILES relatives à l'industrie, &c.
Avances annucllées pour produire un revenu de 600 ^{fr} font 600 ^{fr} 600 ^{fr} produisent net.....	Revenu annuel de 600 ^{fr}	Avances annucllées pour les Ouvrages des Dépenses stériles, sont 300 ^{fr}
Production & consommation 300 ^{fr} reproduisent net.....	300 ^{fr}	Ouvrages, &c. 300 ^{fr}
150 ^{fr} reproduisent net.....	150 ^{fr}	150 ^{fr}
75 ^{fr} reproduisent net.....	75 ^{fr}	75 ^{fr}
37.10 ^{fr} reproduisent net.....	37.10 ^{fr}	37.10 ^{fr}
18.15 ^{fr} reproduisent net.....	18.15 ^{fr}	18.15 ^{fr}
9...7...6 ^{fr} reproduisent net.....	9...7...6 ^{fr}	9...7...6 ^{fr}
4...13...9 ^{fr} reproduisent net.....	4...13...9 ^{fr}	4...13...9 ^{fr}
2...6...10 ^{fr} reproduisent net.....	2...6...10 ^{fr}	2...6...10 ^{fr}
1...3...5 ^{fr} reproduisent net.....	1...3...5 ^{fr}	1...3...5 ^{fr}
0...11...8 ^{fr} reproduisent net.....	0...11...8 ^{fr}	0...11...8 ^{fr}
0...5...10 ^{fr} reproduisent net.....	0...5...10 ^{fr}	0...5...10 ^{fr}
0...2...11 ^{fr} reproduisent net.....	0...2...11 ^{fr}	0...2...11 ^{fr}
0...1...5 ^{fr} reproduisent net.....	0...1...5 ^{fr}	0...1...5 ^{fr}
&c.		

REPRODUIT TOTAL 600^{fr} de revenu; de plus, les frais annuels de 600^{fr} et les intérêts des avances primitives du Laboureur, de 300^{fr} que la terre restitue. Ainsi la reproduction est de 1500^{fr} compris le revenu de 600^{fr} qui est la base du calcul, abstraction faite de l'impôt prélevé, et des avances qu'exige sa reproduction annuelle, &c. Voyez l'Explication à la page suivante.

出所: Kucynsky and Meek (1972)

TABLEAU ÉCONOMIQUE

Objects to be considered: (1) three kinds of expenditure; (2) their source; (3) their advances; (4) their distribution; (5) their effects; (6) their reproduction; (7) their relations with one another; (8) their relations with the population; (9) with agriculture; (10) with industry; (11) with trade; (12) with the total wealth of a nation.

<i>PRODUCTIVE EXPENDITURE</i> relative to agriculture, etc.	EXPENDITURE OF THE REVENUE after deduction of taxes, is divided between productive expenditure and sterile expenditure	<i>STERILE EXPENDITURE</i> relative to industry, etc.
Annual advances required to produce a revenue of 600 ^l are 600 ^l	Annual revenue	Annual advances for the works of sterile expenditure are
600 ^l produce net 600 ^l		300 ^l
Products	one-half goes here	Works, etc.
300 ^l reproduce net 300 ^l		300 ^l
one-half	goes here	
150 ^l reproduce net 150 ^l		150 ^l
one-half, etc.	one-half, etc.	
75 ^l reproduce net 75 ^l		75 ^l
37.10 ^s reproduce net 37.10		37.10
18.15 ^s reproduce net 18.15		18.15
9.7.6 ^d reproduce net 9.7.6 ^d		9.7.6 ^d
4.13.9 reproduce net 4.13.9		4.13.9
2.6.10 reproduce net 2.6.10		2.6.10
1.3.5 reproduce net 1.3.5		1.3.5
0.11.8 reproduce net 0.11.8		0.11.8
0.5.10 reproduce net 0.5.10		0.5.10
0.2.11 reproduce net 0.2.11		0.2.11
0.1.5 reproduce net 0.1.5		0.1.5
etc.		

TOTAL REPRODUCED 600^l of revenue; in addition, the annual costs of 600^l and the interest on the original advances of the husbandman amounting to 300^l, which the land restores. Thus the reproduction is 1500^l, including the revenue of 600^l which forms the base of the calculation, abstraction being made of the taxes deducted and of the advances which their annual reproduction entails, etc. See the Explanation on the following page.

図 1

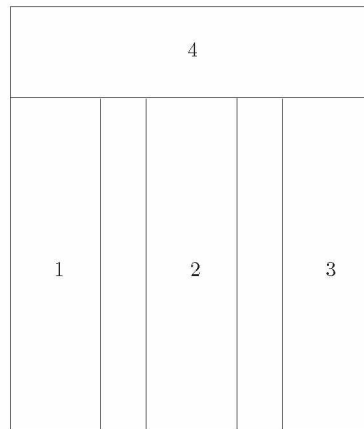
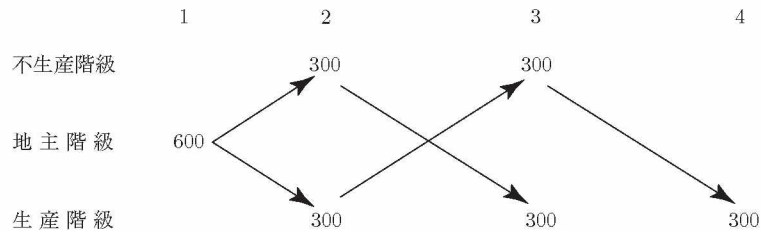


図 2



製品等) 300*l* の購買にあてる。第 2 時点では、生産階級と不生産階級は、ともにその地主階級から受け取った貨幣 300*l* で相手の製品を購入する。そして、第 3 時点において、不生産階級は、生産階級の生産物 300*l* を購買する。

事態が終わった第 4 時点において、地主階級はその収入 600*l* を支出しきっている。また、生産階級への貨幣の入りは 900*l* であり出は 300*l* であるから、彼らは 600*l* の貨幣を保有している。そして、彼らの生産物の出は 900*l* であり、彼らへの不生産階級の生産物の入りは 300*l* である。さらに、不生産階級への貨幣の入りは 600*l* であり出も 600*l* であるから、彼らは貨幣を保有していない。そして、彼らの

生産物の出は 600*l* であり、彼らへの生産階級の生産物の入りは 600*l* である。

こうして、市場での取引の結果として、地主階級は、生産階級の生産物 300*l* と不生産階級の生産物 300*l*、計 600*l* を消費のために保有している。生産階級は、翌年の地代の支払いにあてるべき 600*l* の貨幣と不生産階級の生産物での翌年の年前払 300*l*、計 900*l* を保有している。不生産階級は、生産階級の生産物での翌年の年前払 300*l* と自らの消費のための生産階級の生産物 300*l*、計 600*l* を保有している⁽⁴⁾。

次に、以上の補正を前提として、図 1 の 4 の横長の長方形に示されるべき事柄を見てみよう。

そこには、以上のような階級間の市場での取引関係の前提でもあり帰結でもある、a) 不生産階級の生産物での 300*l* と、ケネーが「表」の階級間の取引を示す部分からは排除している自らの生産物での 300*l*、計 600*l* の生産階級の年前払が確保されること、b) 地主階級の収入 600*l* の支払い・受け取りが確保されること、c) 生産階級の生産物での 300*l* の不生産階級の年前払が確保されること、というこの王国の単純再生産の持続を保証する 3 つの条件が成立することが、示されるべきことになる。

そして、ケネーは、現に、図 1 の 4 の長方形に、少なくとも数値上では、正しくそれらの事柄を示しているのである。

なお、この王国の単純再生産の持続が保証されるためには、その年の終わりに、生産階級が自らの消費のために、自らの生産物 300*l* を保有している、という、ケネーが「表」とその「要約」で明示的に言及していない事態が必要とされる。

3 以上の補正を含んだ説明からすれば、ケネー自身の「ジグザグ表」とその「要約」には、大きくは以下のような 4 つの混乱が存在するように思われる。

第 1 は、図 1 の 1, 3 の縦長の長方形に示された、生産階級と不生産階級とが相互に与えあう需要の大きさに関することである。

「表」では、それらの 2 階級は、地主階級に対する彼らの生産物の販売によって得た貨幣 300*l* を、相互に相手の生産物に対する重要として与えあっているように読み取れてしまう。

しかしながら、生産階級が不生産階級の生産物を合計で 300*l* 需要し、不生産階級が生産階級の生産物を合計で 300*l* 需要すれば、不生産階級が自らの生産物の地主階級への販売によって手に入れた貨幣 300*l* は、生産階級との取引の結果として不生産階級の手元に戻ってしまう。それは、地主階級に地代を支払った生産階級のもとには還流しないことになる。そして、その還流がなされないなら、この王国の経済の単純再生産の持続は不可能になってしまうのである。

そうした貨幣 300*l* が生産階級のもとに還流するためには、不生産階級が生産階級に与える需要は、生産階級が不生産階級に与える需要を 300*l* だけ上回っていなければならない。すなわち、図 2 に示したように、後者が 300*l* であるとすれば、前者は 600*l* でなければならないのである。

第 2 は、図 1 の 2 の縦長の長方形に示され

(4) 「ジグザグ表」そのものの「説明」(pp.i-v)では、生産物の外国貿易が問題とされたり、その階級内での内部循環が問題とされたりするため、「範式」と比べて、生産部門と不生産部門との間での再生産における連関の定式化は、不明確なものとなっている。

なお、そこでは、生産階級の生産物での不生産階級の年前払には、原料とともに彼らの消費部分が含まれるとも読み取れる叙述と、「範式」でのように、不生産階級の年前払と彼らの消費部分とを明確に区別する叙述とが併存している。また、そこでは、生産階級による不生産階級の生産物(衣服・什器等)の消費について語られる一方、不生産階級の生産物での彼らの年前払については、道具の購入に触れられるだけで、あまり明確には語られない。注(6)も参照。

た事柄に関することである。

ケネーは、そこで、生産階級が計 600*l* の貨幣を回収していくことによって、彼らが翌年も 600*l* の純生産物にあたる収入を地主階級に支払う条件が形成されていくことを示そうとしたのであると思われる。しかしながら、そのことを正しく示すためには、1, 3 の長方形に示された内容を補正し、それと 4 の長方形に示された内容を組み合わせれば十分であり、わざわざ 2 の長方形の部分を設定する必要はない。

図 1 の 2 の長方形の設定は、1, 3 の長方形に示された、ケネーの理解の混乱がもたらしたものであることになる。

第 3 は、「表」の「要約」に出てくる、生産階級の原前払の利子に関することである。

生産階級の原前払というとき、後に見るように、ケネーは耕作に用いられる犁の問題に注視している。彼が、犁を始めとした農具や納屋・柵といった設備のような、農業に投じられる固定資本の問題を重視していたことは明らかである。

しかしながら、そうした固定資本の投下は、利潤——ケネーの理解では利子——とともに減価償却費をもたらす。そして、その減価償却費は固定資本の更新が行なわれるまでは、直接に生産に用いられることはなく、生産から引き上げられ、積み立てられていかなければならない。固定資本の問題を、年々の単純再生産の持続を問題とする「表」に、簡単に導入することはできないのである。

その第 3 の点は、第 4 の生産階級の消費の取り扱いに関することともかかわる。

「表」とその「要約」においては、総再生産に生産階級の消費部分そのものは明示的には登場しない。

しかしながら、その生産階級の消費部分は、総再生産の中に明示的に含めなければならない。先に見たように、ケネーは、「表」の「要約」において、中途半端に固定資本の問題を取り扱わずに、生産階級による総再生産 1,500*l* は、

600*l* の収入（地代）+ 600*l* の年費用
+ 300*l* の農民の原前払の利子、

からではなく、

600*l* の収入（地代）+ 600*l* の年費用
+ 300*l* の農民の消費資料、

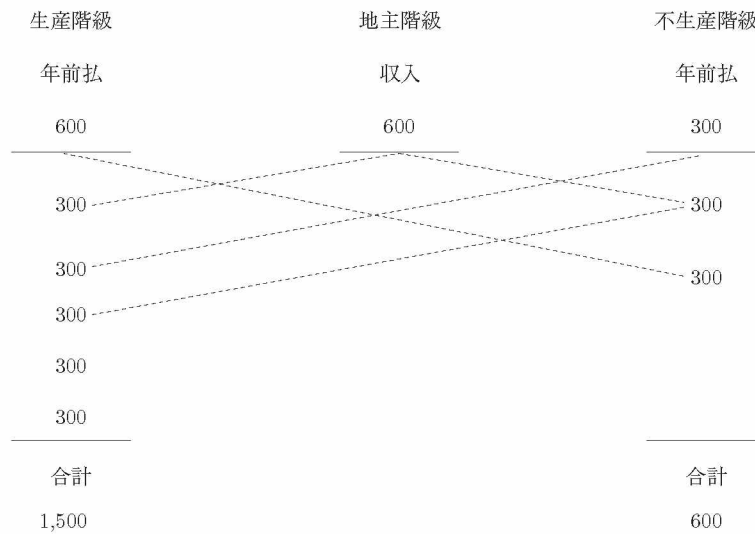
からなるものと考えなければならなかった、と思われるのである。

4 ところで、注目すべきことは、経済表の「範式」では、以上で述べた第 3, 第 4 の問題はいまだ明確化されているとはいえないものの、第 1, 第 2 の問題は正しく解決されていることである。

図 2 の含意を、明瞭な「異時同図法」を崩して、縦表示に戻し、図 1 の 4 の横長の長方形と組み合わせると、図 3 が得られる。図 3 は、数値例の値が異なるだけで、ケネーの「範式」そのものなのである。⁽⁵⁾ そうした点からすれば、「範式」こそ、ケネーの再生産論の到達点を示すものであることになる。「ジグザグ表」はそ

(5) 寺出 (2010) を参照。

図 3



の「範式」のいわば準備作という意味をもっていたことになるのである。

だが、「ジグザグ表」とその「説明」は、単に未完成な「範式」という意味付けのみを与えられるべきものではない。そこで、その点について、次節で検討していこう。

(3) 人口・富・経済統治

1 ケネーは、「ジグザグ表」の「説明」において、同表に示されたような数値は、各階級の人々が、食料品のような生産階級の生産物と装飾品のような不生産階級の生産物とのいずれをより好んで消費するかによって変化するものであるとする。「表」は、生産階級の生産物への需要が、地主階級の収入を年々一定に保つような、中位的な事態を示したものであるとするのである。

そうした注意の後に、ケネーは「表」の数

値を 100 万倍するとともに、そこでは捨象されていた事柄を「上向法」的に叙述に導入して、フランス王国を念頭に置いた、より現実的な規模の、1 つのあるべき富裕な農業王国の経済の具体的な姿を描き出していく。

2 ケネーは、まず、この王国の人口と富に注視する。

「ジグザグ表」では、生産階級、不生産階級は、合わせて 600*l* の消費を行なうと考えなければならない。その 600*l* の消費は、1 家族が 4 人からなるとして、3 家族を扶養することができる。したがって、合計 6 億 *l* の消費によって、300 万家族、1,200 万人の人口が扶養される。また、「説明」では、生産階級による自らの生産物での 300*l* の年前払は、富裕な農民が雇用する農業労働者の賃金にあたりとされる。彼らは、合計 3 億 *l* の賃金を受け取り、100 万家族、400 万人の人口が扶養される。⁽⁶⁾

こうして、この王国の非地主階級の人口は、合計 400 万家族、1,600 万人であることにな⁽⁷⁾る。

また、この王国の生産階級は、6 億 *l* の収入（地代）を支払うとともに、3 億 *l* の租税と 1.5 億 *l* の十分の一税を支払うとされる。その合計は 10.5 億 *l* である。その場合、ケネーの「表」や「範式」における設定では、生産階級の年前払と彼の定義における純生産物——古典派・マルクス的にいえば剰余生産物——とは等額となるから、生産階級の年前払は、10.5 億 *l* であることになる。そうした 10.5 億 *l* の年前払の利子は、利率を 10 % として約 1.1 億 *l* である。それらに墾の利用にともなう原前払約 33.3 億 *l* の利子である約 3.3 億 *l* を加えて、合計で約 25.4 億 *l* がもたらされること⁽⁸⁾になる。

さて、この王国の生産階級がもたらす純生産物は、先に述べたように、収入と租税と十分の一税との合計で 10.5 億 *l* である。それを王国の為政者でもある地主階級にとっての土地についての利回りを 3 $\frac{1}{4}$ % として、資本還元すれば、土地資産の総額は、315 億 *l* であ⁽⁹⁾る。また、生産階級のもとにある原前払の総額は約 43.3 億 *l* である⁽¹⁰⁾。さらに、先に述べた、約 25.4 億 *l* が存在する。そうすると、この王国の生産階級のもとでの富の合計は、約 383.7 億 *l* であることになる。

一方、不生産階級のもとには、年前払として約 5.3 億 *l*⁽¹¹⁾、原前払として 20 億 *l*、鍔貨が 10 億 *l*、家屋が 60 億 *l*、家具・什器等が 30 億 *l*、銀製品・宝石等が 30 億 *l*、船舶・公共施設等が 20 億 *l*、以上の合計で約 175.3 億 *l* の富⁽¹²⁾が存在する。

-
- (6) 「ジグザグ表」そのものの「説明」(pp.i-v)では、生産階級の年前払は、農業労働者の賃金と家畜の飼料とからなるとされる。しかしながら、そう考えると、家畜の飼料が草であるとしても、不生産階級の生産物での前払部分を用いる余地はなくなってしまふ。逆に、不生産階級の生産物での生産階級の年前払の存在を明確に考慮すれば、農業労働者の存在は、「説明」の部分で新たに議論に導入されたものと考えなければならないことになる。なお、ケネーの挙げる数値例は分かりやすいが、ここでは、農業労働者 1 家族の所得は、生産階級・不生産階級のそれを上回ってしまうことになる。
- (7) 以上のように、「説明」における人口には、地主階級は含まれていないと考えなければならない。この点については、前記「格言抜粋」(pp.1-2)を参照。
- (8) ここでの利子の計算には誤りか数字の誤植がある。数値は、Kucynsky and Meek (1972) の注にしたがって訂正した。以下、その数値がかかわる計算は、訂正にしたがって行なう。なお、ケネーはより小さな桁までの計算を行なっているが、本稿では、このパラグラフからは、その概算を紹介することにする。
- (9) ケネーによるこの純生産物の資本還元の計算には誤りか数字の誤植がある。数値は、Kucynsky and Meek (1972) の注にしたがって訂正した。以下、その数値がかかわる計算は、訂正にしたがって行なう。なお、この土地資産の総額 315 億 *l* は、地代と租税と十分の一税の合計、10.5 億 *l* を利子と見なして、生産階級は、地代の取得者でもあり為政者でもある地主階級から、そうした 10.5 億 *l* の利子を支払うべき元本 315 億 *l* を借り受けて占有している、と捉えたものであると解釈する。
- (10) 原前払約 43.3 億 *l* には、地主階級が放牧地・ブドウ畑等に行なった原前払 10 億 *l* が加えられている。ここでも、地主階級が原前払を行なった土地を、生産階級が借り受けて占有していることが含まれている、と解釈する。
- (11) Kucynsky and Meek (1972) の注にしたがえば、これは租税や十分の一税を含んでの数値である。

この約 175.3 億 *l* に先に述べた約 383.7 億 *l* を加えた 559 億 *l*、ケネー自身の概約では 550 億～600 億 *l* が、この王国の富の総額であることになる。⁽¹³⁾ そうした富が、年々 6 億 *l* の収入（地代）、3 億 *l* の租税、1.5 億 *l* の十分の一税の合計で、10.5 億 *l* の純生産物を持続的にもたらず、富裕な王国には存在しているのである。

3 注目すべきことは、以上のような人口と富についての「説明」の中で、ケネーが農業の改良の重要性について強調していることである。

当時のフランスの穀作には、馬によって牽引される犁を用いて大規模な耕作を行なう、フェルミエと呼ばれる富裕な農民層と、中世以来の、牛によって牽引される犁を用いて小規模な耕作を行なう、メテイエと呼ばれる貧困な農民層とが存在した。フェルミエは若干の農業労働者を雇用していた。ケネーが農業労働者の存在に触れているのは、そのフェルミエに着目しているからである。一方、メテイエはその貧困のゆえに、いわゆる分益小作の形態をとっていた。

ケネーによれば、当時の技術で、4,000 万アルパンの穀作地を耕作するのに、馬耕による

犁を用いれば、犁が約 33 万台、犁手が約 33 万人必要であった。一方、同じ 4,000 万アルパンの穀作地を耕作するのに、牛耕による犁を用いれば、犁が約 100 万台、犁手が約 200 万人必要であった。

馬耕は牛耕に比べて、1 台の犁を用いるのに必要な人間が少なくすむだけでなく、犁の進行速度も速く、また、土地をより深く耕作すること（深耕）も可能であった。したがって、前者は後者よりも、労働生産性も土地生産性も高かったことになる。土地生産性についていえば、後者は前者の 5 分の 2 程度であったと、ケネーは推定している。彼は、そうした牛耕の生産性の低さは、「それが支配的に行なわれている諸国の貧困と衰退を明らかにする」(p.vi) と述べる。「表」に示された数値は、そうした牛耕ではなく馬耕を前提としたものなのである。

ケネーは、この王国の 400 万家族の年所得の総計を、前項で見た約 25.4 億 *l* から家畜の飼料約 5.3 億 *l* を差し引いた約 20.1 億 *l* であるとしているから、1 家族あたりの平均所得は、約 503 *l* であることとなる。⁽¹⁴⁾ そうした所得の水準は、馬耕による全面的な耕作を前提として計算された、あるべき数値なのである。そして、そうした所得水準の「基礎の上で、国

(12) ここでも、合計の計算には誤りか数字の誤植がある。数値は、Kucynsky and Meek (1972) の注にしたがって訂正した。以下、その数値がかかわる計算は、訂正にしたがって行なう。なお、ここでの家屋の評価総額には、生産階級や農業労働者の家屋が含まれてしまっている。次の項の家具・什器等についても同様である。

(13) ケネー自身は、この 550 億～600 億 *l* を「生産的支出階級の……富の総計」(p.viii) と「不生産的支出階級の富の総計」(p.xi) との和として算定している。しかし、生産階級、不生産階級のもとの富の内訳からすれば、それは地主階級や国家そのものの富も加えた「国富」の総計を意味しているようにも読み取れる。

家は強い租税負担能力と資源をもつのであり、人々は安楽な状況のもとで暮らすことができるのである。」(p.viii)

さらに、ケネーは、あと 50 億 *l* ないし 60 億 *l* の前払を追加し、馬耕を採用すれば、この王国の穀作地の総計を、4,000 万アルパンから 6,000 万アルパン以上にまで増大させることができるとしている。

18 世紀の後半において、イギリス・フランスの両国では、三圃制（改良三圃制）に代わって、飼料用の根菜（蕪）の栽培を含む、輪栽制という新たな農法が採用されだしていった。そうした新たな農法そのものの採用は、いまだ、「説明」での叙述には取り入れられていなかった。だが、そこでは、牛耕に代わる馬耕の採用については明確に語られていた。ケネーは、そうした役畜の変化と、それにともなう犁そのものの改良に、農業の改良の鍵を、ひいては王国の富裕化の鍵を見いだしていたのである。

4 以上のような人口と富そして農業の改良についての叙述を受けて、ケネーは、この王国の為政者、狭義には主権者である王、広義

には聖俗の貴族を含めて構成された地主階級が、その王国の富裕を維持するために採用すべき経済統治の指針について述べるのである。

そこで、ケネーは、農業の重要性を強調する。彼は、次のように述べる。

「農業国が衰退に陥る」のは、「もっぱら生産的支出のために必要な前払を毀損してしまうことによるのである。この毀損は、8 つの主な理由によって短期間のうちにかなりの進行を示してしまう。」(p.xi)

そうした、ケネーの挙げる 8 つの理由のうち、特に重要なものは以下の 4 つである。⁽¹⁵⁾

「1. 課税の査定についての誤った体制。それは、耕作者の前払を侵食してしまう。*Noli me tangere*（私に触れるな）というのが、その前払についてのモットーである。

……

3. 装飾についての奢侈の過剰。

……

6. 原料や耕作の生産物の取引における自由の欠如。

……

8. 年純生産物の生産的支出階級への還流の失敗。⁽¹⁶⁾」(pp.xi-xii)

(14) ここでも、平均の計算には誤りか数字の誤植がある。数値は、Kucynsky and Meek (1972) の注にしたがって訂正した。

「ジグザグ表」でも「範式」でも、生産階級の年前払、純生産物、生産階級の消費と不生産階級の消費の和の 3 者は等額になるという設定が用いられている。また、彼は、「説明」では、生産階級の年前払は、農業労働者の賃金と家畜の飼料からなるとしている。したがって、純生産物と生産階級の年前払と利子の 3 者の和である約 25.4 億 *l* から、家畜の飼料約 5.3 億 *l* を差し引いた約 20.1 億 *l* は、生産階級、不生産階級、農業労働者の 3 階級の所得の和に等しくなる。なお、前記「格言抜粋」(pp.1-2) では、経済の階級構成について「説明」とは異なった設定が導入されているように読み取れる。

(15) 以下、番号はケネーの 8 つの理由に付されたものであり、本稿では飛んでいる。

(16) 地代として地主階級に支払った貨幣が生産階級に還流しないことを指す。

ケネーが奢侈的な装飾の過多を戒めていることは興味深い。バロックやロココの華麗な装飾に満ちあふれたヴェルサイユで、彼ほどのような思いをもってそうした戒めを残したのであろうか。もし、単に、フランスの絶対王制の現状を擁護しなかったのなら、彼には、奢侈は究極的には生産階級の生産物への需要を増大させる効果をもつ、という議論を作り出すこともできたであろう。

5 さて、ここで、ケネーにおける「生産的」「不生産的」という概念について、簡単に考えておこう。

まず、注意すべきことは、それは、古典派・マルクスのように「(交換)価値」について「生産的」ないし「不生産的」という意味で用いられているのではない、ということである。交換価値という点でいえば、不生産階級も自らが消費する消費財の交換価値に等しい価額をその生産物に付加している⁽¹⁷⁾。問題は、その生産が地主階級に対して収入(地代)をもたらしかどうか、「収入生産的」であるかどうか、ということなのである。そうした、「生産的」「不生産的」という区別は、収入の取得者である地主階級の観点からなされているのである。

ケネーは、「ジグザグ表」における抽象的な議論においても、その整合的な取り扱いに成功してはいないとはいえ、生産階級は、原前払の利子を受け取るとしている。また、「表」の「説明」におけるより具体的な議論におい

ては、彼らは、年前払の利子も受け取るとされる。生産階級は、その前払に対応して——いまだ利潤という概念こそ用いられていないものの——利子を取得するのである。

そして、ケネーは、そうした借地資本家(農業資本家)的な成長をとげだしつつある生産階級に対して、彼らの前払を毀損することのないような、適切な課税を行なうことの重要性を強調する。また、彼は、前払の回収部分を含んだ粗所得を、生産階級に順調に帰属させるために、市場における自由な取引を保証することの重要性をも強調するのである。

このように、収入(地代)、さらには租税および十分の一税の確保という、地主階級的な観点から、王国の為政者でもある彼らに、適切な課税を実施するとともに、市場における自由な取引を保証することを求めた点に、晩期の絶対王制下の経済思想家としてのケネーの本領があったといえるであろう。

(4) おわりに

以上で見てきたように、ケネーは、その『経済表』において、まず、抽象的なモデルである「ジグザグ表」を提示し、次いで、その「説明」において、それをより具体的な農業王国の描写に拡大し、その上で、その王国の為政者に必要とされる経済統治の指針を導き出したのである。

その指針の要点は、農業の改良の進行を基

(17) さらに、前述のように、Kucynsky and Meek (1972) による解釈では、不生産階級も租税や十分の一税を負担する。注(11)を参照。

礎として、為政者が、適切な課税を行なうとともに、市場における自由な取引を保証する、ということであった。それは、現実のフランス王国・ブルボン家の王国における絶対王制の改良を目指した、ケネーにふさわしい提言であったといえる。

その場合、「ジグザグ表」および「範式」を、農業王国の「単純再生産表式」として純化するためには、その中に不用意に原前払の問題を組み込まない——古典派・マルクスのいえば、流動資本の存在のみを取り上げ、固定資本の存在を捨象する——ことが求められたといえる。しかし、その模型から、農業王国における経済統治の指針を導き出すことを目指したケネーにとっては、そこに原前払の問題を組み込むことは、不可欠でもあったのである。

(経済学部教授)

参 考 文 献

- Blaug, M., (ed.) *François Quesnay (1694–1774)*, Vol.I・II, Aldershot, 1991.
- Etlis, W. A., François Quesnay: A Re-interpretation. 1. The *Tableau Économique*., *Oxford Economic Papers*, 27–3, 1975. 以下に所収。Blaug, Vol.I (1991).
- Marx, K., *Capital*, Vol.II, *Collected Works*, Vol.36, New York, 1885/1997.
- Meek, R. M., The 1758–9 ‘Editions’ of the *Tableau Économique*. 以下に所収。Kucynsky, M. and Meek, R. M., (eds.) *Quesnay’s Tableau Économique*, London and New York, 1972.
- Philips, A., *Tableau Économique*, as a Simple Leontief Model, *Quarterly Journal of Economics*, 69–1, 1955. 以下に所収, Blaug, Vol.II (1991).
- Quesnay, F., *Tableau Économique*, 3rd ed., 1759. 以下に所収。Kucynsky and Meek (1972).
- 平田清明・井上泰夫訳『ケネー 経済表』岩波書店, 1990年。
- 小池基之『ケネー「経済表」再考』みすず書房, 1986年。
- 御崎加代子『フランス経済学史——ケネーからワルラスへ』昭和堂, 2006年。
- 寺出道雄「比例と均衡——ケネー「経済表 範式」についての一試論」『三田学会雑誌』103巻1号, 2010年。